

19:1 イスラエルに王がなかった時代のこと、ひとりのレビ人が、エフライムの山地の奥に滞在していた。この人は、そばめとして、ユダのベツレヘムからひとりの女をめぐらした。

2 ところが、そのそばめは彼をきらって、彼のところを去り、ユダのベツレヘムの自分の父の家に行き、そこに四か月の間いた。

3 そこで、彼女の夫は、ねんごろに話をして彼女を引き戻すために、若い者と一くびきのろばを連れ、彼女のあとを追って出かけた。彼女の夫を自分の父の家に連れて入ったとき、娘の父は彼を見て、喜んで迎えた。

4 娘の父であるしゅうとが引き止めたので、彼は、しゅうとといっしょに三日間とどまった。こうして、彼らは食べたり飲んだりして、夜を過ごした。

5 四日目になって朝早く、彼は出かけようとして立ち上がった。すると、娘の父は婿に言った。「少し食事をして元気をつけ、そのあとで出かけなさい。」

6 それで、彼らふたりは、すわって共に食べたり飲んだりした。娘の父はその人に言った。「どうぞ、もう一晩泊まることにして、楽しみなさい。」

7 その人が出かけようとして立ち上がると、しゅうとが彼にしきりに勧めたので、彼はまたそこに泊まって一夜を明かした。

8 五日目の朝早く、彼が出かけようとする、娘の父は言った。「どうぞ、元気をつけて、日が傾くまで、ゆっくりしていなさい。」そこで、彼らふたりは食事をした。

9 それから、その人が自分のそばめと、若い者を連れて、出かけようすると、娘の父

であるしゅうとは彼に言った。「ご覧なさい。もう日が暮れかかっています。どうぞ、もう一晩お泊まりなさい。もう日も傾いています。ここに泊まって、楽しみなさい。あすの朝早く旅立って、家に帰ればいいでしょう。」

10 その人は泊まりたくなかったので、立ち上がって出て行き、エブスすなわちエルサレムの向かい側にやって来た。鞍をつけた一くびきのろばと彼のそばめとが、いっしょだった。

11 彼らがエブスの近くに来たとき、日は非常に低くなっていた。それで、若い者は主人に言った。「さあ、このエブス人の町に寄り道して、そこで一夜を明かしましょう。」

12 すると、彼の主人は言った。「私たちは、イスラエル人ではない外国人の町には立ち寄らない。さあ、ギブアまで進もう。」

13 それから、彼は若い者に言った。「さあ、ギブアからマのどちらかの地に着いて、そこで一夜を明かそう。」

14 こうして、彼らは進んで行った。彼らがベニヤミンに属するギブアの近くに来たとき、日は沈んだ。

15 彼らはギブアに行つて泊まろうとして、そこに立ち寄り、町に入って行って、広場に座った。だれも彼らを迎えて家に泊めてくれる者がいなかったからである。

レビ人が妻以外にそばめをめぐりましたが、彼女はレビ人をきらって、父の家に帰ります。レビ人は彼女を連れ戻そうとその家に滞在し、帰り道にギブアに来ますが泊まる場所がありませんでした。

レビ人は幕屋で神に仕えるために召された家系です。にも関わらず間違つた結婚関係を結び、快楽に負けていつまでもそばめの家に滞在したこと、後の醜悪極まりない事件と戦争が生まれることになってしまいました。

神様の御心に反することは、そのときは「小さなこと」と安易に考えるのですが、実は恐ろしい罪や争いに発展するのだということ、この記事は教えています。

新約の祭司であり神に仕える私たちは、その点を心に留めつつ、しかし失敗があったときは主の憐れみと愛に依り頼みつつ悔い改めていきましょう。間違いを認めないで自分を正当化して、自分を押し通すのが最もいけないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

